

2021年度 日本地理学会春季学術大会
(26 Mar. 2021 東洋大学オンライン開催)

S108

復興をめぐる都市地理学

香川貴志 KAGAWA Takashi

(京都教育大学 / 同附属桃山小学校)

kagawa@kyokyo-u.ac.jp

はじめに(1)

なぜ「復興をめぐる都市地理学」なのか？

地震、火山噴火、豪雨洪水等は、自然現象としての突発的な環境変化

→人類の生活に「負の影響」が生じることで
災害や被害となる。

(環境変化) 東北地方太平洋沖地震

(災害・被害) 東日本大震災

* 兵庫県南部地震と阪神・淡路大震災も同様

はじめに(2)

人の生活が稠密な場所(都市などの集落)では、
災害を防ぐ防災は、現実として非常に困難で、
「負の影響」を最小限にす減災が重要



巨大な環境変化と正面から「闘う」のではなく、
「避ける(逃げる)」 = 減災の要諦

S101~S106報告の総括

S101 「想定外」の回避をめぐる考究

S102 大震災からの産業復興

S103 大川小学校訴訟

S104 ハザードマップの展開と課題

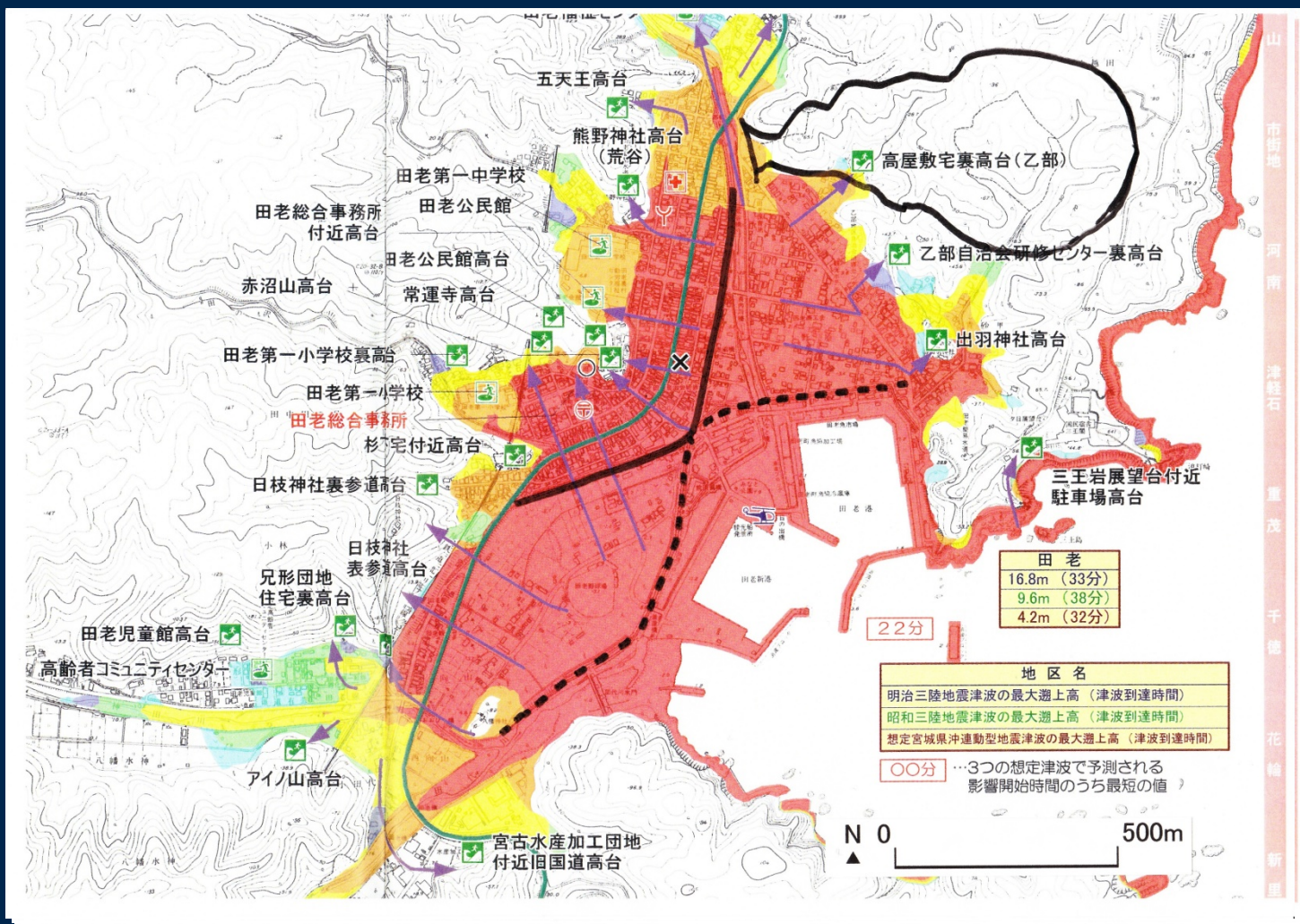
S105 地図を活用した災害伝承

S106 地理院地図の活用



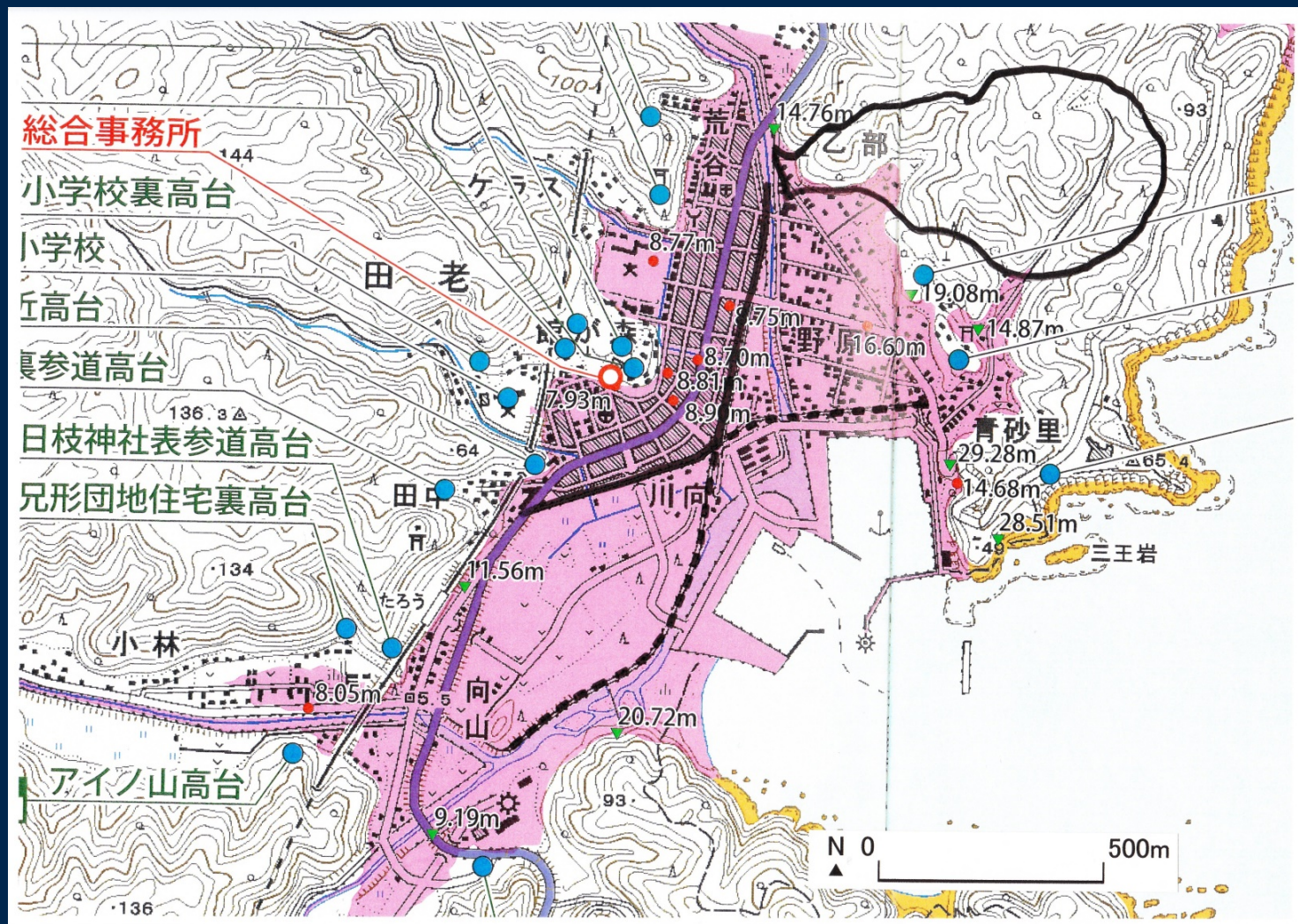
環境変化と社会活動(生活)の調和のために
地図や空間認識が極めて重要

宮古市田老の経験に学ぶ(1)



津波浸水危険地域(2008年ハザードマップ)

宮古市田老の経験に学ぶ(2)



2011.3.11における津波被災(浸水)区域

宮古市田老の経験に学ぶ(3)

津波浸水危険地域(2008年ハザードマップ)
≒2011.3.11における津波被災(浸水)区域



津波被害は予見されていた！

【なぜ被害が？】

防浪堤(防潮堤)への過信、想定外の大津波
被災体験の風化、土地・家屋への執着 etc.

宮古市田老の経験に学ぶ(3)

CM(コンストラクション・マネジメント)方式による復興

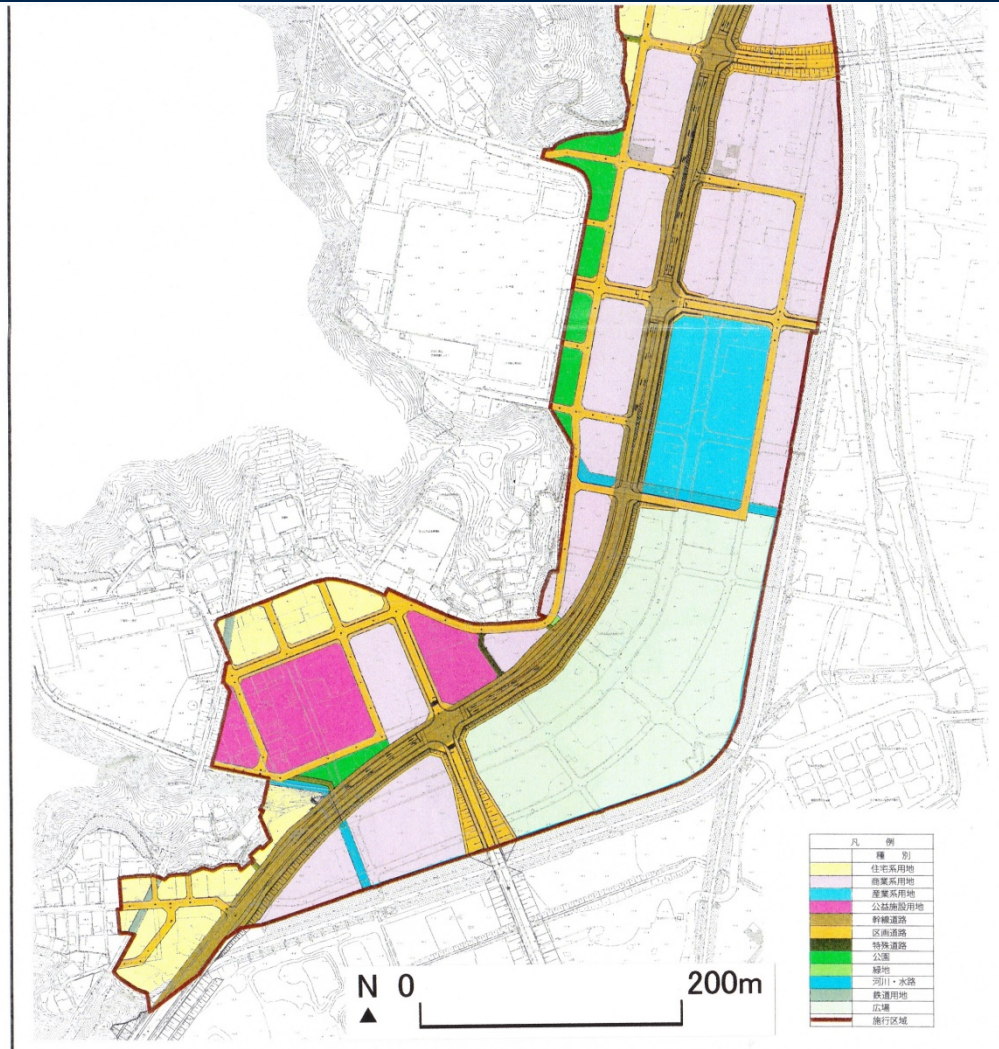


施主から委託・準委託を受けた施工主体が
ステークホルダーからの意見集約を図って、
中立性に配慮して復興事業を進めていく方法



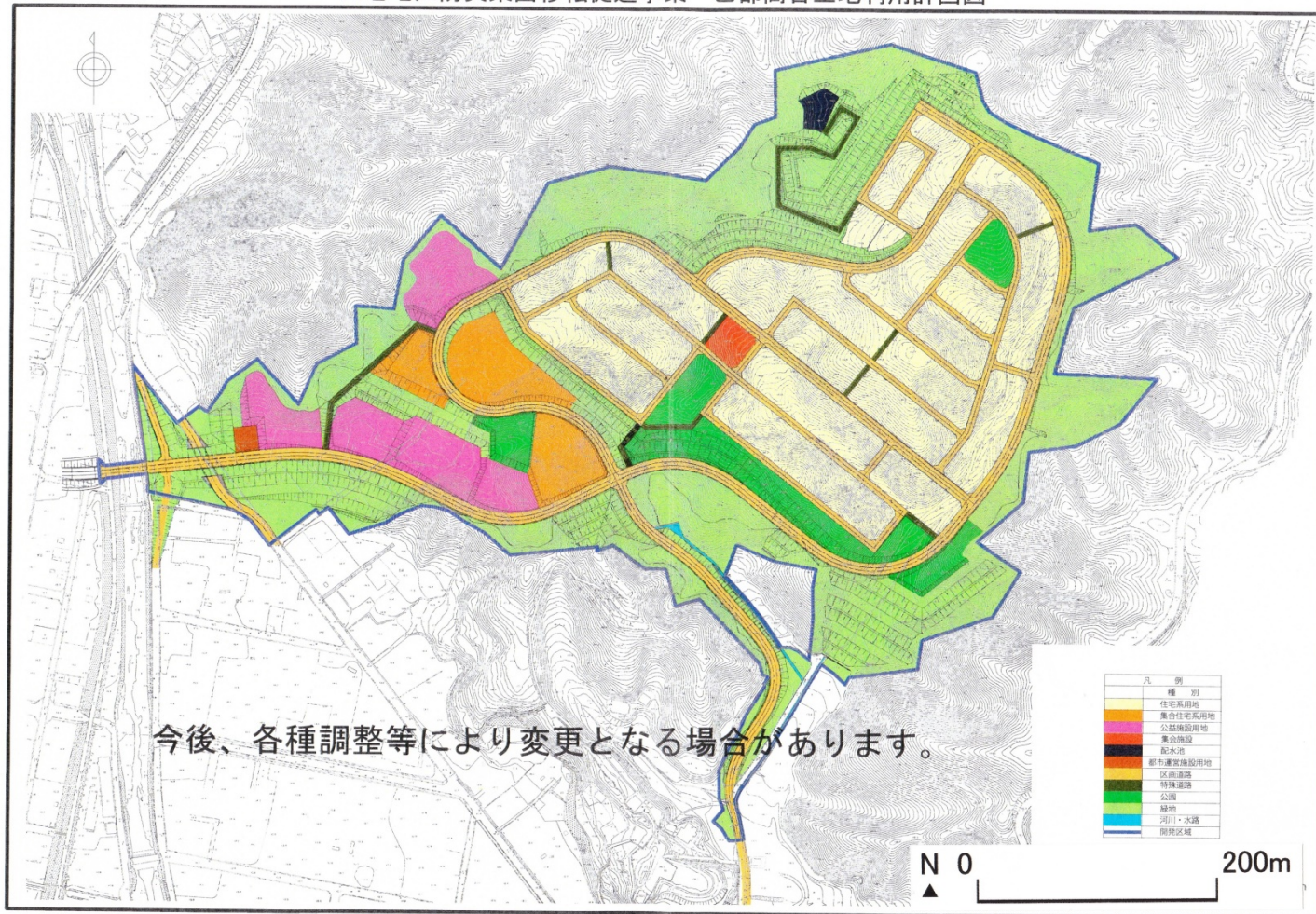
戦前竣工の防浪堤の外側＝災害危険区域
住宅の高台(標高40~60mの三王台)への移転

田老旧市街地の都市計画(2013)



田老の住宅高台移転案(2013)

田老地区防災集団移転促進事業 乙部高台土地利用計画図



まとめ —地理学ができること—

【自然地理学】

DEM(数値標高モデル)等を駆使した正確な
ハザードマップの作製や啓蒙活動

【人文地理学(とくに都市地理学)】

都市計画や用途地域指定への助言や参画

→高台移住、災害危険区域の設定など

私権の抑制や制限が必要

調整(居住者視点 ↔ 他所者視点)

=CM(コンストラクション・マネジメント)方式の復興

お わ り

ご静聴、ありがとうございました。